

鎌ヶ岳 (1161m) ・ 水沢岳 (1029m) /11月の会山行

2019年11月9日 Shiba (記)

鎌ヶ岳は鈴鹿の山の中でも最もアルペシ的な姿をした山と紹介されているが、正しく標高1,000mの日本アルプスだった。場所は御在所岳の南、鈴鹿スカイラインを挟む形で、御在所岳と対峙している。

参加人数が12人であったため、本来のバス山行ではなく、自家用車+レンタカーでの山行となった。歩行コースが宮妻峽キャンプ場から水沢峠、ここから北へ向けて水沢岳、鎌ヶ岳をへて鈴鹿スカイラインの武平峠に下る縦走ルートのため、ツアーコンダクター役のY氏と大病から復帰のM氏が車の回送役のサポートを勤めた。

高速道路を鈴鹿スマートICで降り、鈴鹿山脈の西側からのアプローチとなる。車窓からみると、鋭く尖った山並みの北側の先に鎌ヶ岳が見えるが、それらの形はまるでサメの歯が並んでいるかの様だ。稜線部分は岩稜が続き1000m程の山並みには似つかわしくないほどの威容を見せている。

カズラ谷登山口の所まで車を直接乗り入れたが、手前の宮妻峽キャンプ場の駐車場の所で止められてしまった。地元の協会の人たちと警官一人が立っており、入山者への安全呼びかけやアンケートを取っている。駐車場もほぼ満杯で人も多そうだった。

駐車場を9:25にスタート。ここからカズラ谷登山口までは5分程、さらに林道を30分程行くと水沢峠登山口に到着、ここで準備をし直す。登山道は谷道からスタートするが10分程で尾根道に出る。ここから尾根道がつづくのかと思いきや谷や尾根の繰り返しが続く。道はざらついた土質でキチンと踏みつけると滑りやすいが、標識もしっかりしており良く整備されている。やがてジグザグの急斜面を登り切ると水沢峠に着く。

ここから鎌尾根と呼ばれる稜線コースが始まる。サレ場の滑りやすい急斜面に足を取られながら登り詰めると水沢岳山頂に着く。ここで昼食休憩。この日は澄み切った好天に恵まれ、伊勢湾の遠く、南は鳥羽方面、東は知多半島やさらに渥美半島の先端まで見える。西に目をやればびわ湖も見え、近江富士が小さく下の方に見える。

水沢岳からは鎌ヶ岳を眺めながらの稜線歩きとなる。暫くはなだらかな道が続くが、やがて鎌尾根の岩稜帯が始り、急峻な登り下り、やせ尾根、ガレ場の繰り返しが続く。滑りやすい足元には特に注意が必要だ。遠くからは鎌ヶ岳の背後にあった御在所岳だったが、鎌ヶ岳に近づくにつれその二つが分離していく。やがて岳峠に到着、ここから見上げる鎌ヶ岳の頂上部分は日本アルプスの鋭い頂上の岩峰そのもの、一步も引けをとらない。その岩稜を10分程上り詰めると頂上。頂上には三角点はないが祠があり、南北に長く、北、東、南に開けている。好天と紅葉の始まりの様相に景色を堪能しながら、サポート組みの到着を待つことに。

25分程経ってもサポート組みは到着せず、時間切れのために心配をしつつも下山の途に。下山開始後5分も経たない所でサポート組みと出会うことができた。ここまで登ってきたからにはサポ

ート組にも頂上を極めてもらう事になり、M 氏の僚友ともいえる N さんと健脚の F さんがお付き合いし 4 人で再度山頂へ。残り 8 人は一足先に下ることになった。

鎌ヶ岳は岩稜帯も多く、稜線歩きの登り下りもけっこう険しい。鈴鹿に、こんなところがあるなんてと思わせる。未経験の方には、何を差し置いても鈴鹿で一番にお勧めしたい一峰である。

◆メンバー：会員 11 人、一般 1 人

◆コース：宮妻峡キャンプ場 9:25～水沢峠登山口～水沢峠～水沢岳 11:35～岳峠～鎌ヶ岳
13:45～武平峠 15:15

◆所要時間／歩行時間：5 時間 50 分／4 時間 45 分



鈴鹿山脈 鎌ヶ岳山頂にて



水沢岳頂上



鎌尾根から見る鎌ヶ岳



下山途中にあるキノコ岩